

令和 7 年度 名取市歯と口腔の健康づくり推進協議会 会議録

【日時】令和 7 年 11 月 14 日(金)13:30～14:30

【場所】名取市保健センター 1階 保健指導室

【出席者】

○委員:11名

遠藤会長(岩沼歯科医師会 会長)、守副会長(岩沼歯科医師会 事務理事)、
清水委員(岩沼歯科医師会 理事)、池田委員(岩沼歯科医師会 理事)、
大宮委員(岩沼歯科医師会 理事)、三浦委員(宮城県歯科衛生士会 理事)、
齋藤委員(愛島地区民生委員児童委員 会長)、阿部委員(名取が丘保育所 所長)、
庄子委員(宮城県塩釜保健所 技術次長)、西坂委員(こども支援課 課長)、
橋本委員(介護長寿課 課長)

○事務局:9名

中山部長、安部所長、加藤補佐、矢澤統括保健師、砂金母子保健係長、佐藤(和)成人保健係長、
阿部保健師、大友歯科衛生士、佐々木保健師

○欠席:6名

千田委員(名取市医師会 会長)、高橋(仁)委員(岩沼歯科医師会 副会長)、
水沼委員(なとり生活支援センター窓 センター長)、森口委員(高館小学校 養護教諭)、
大元委員(社会福祉課 課長)、高橋(大)委員(学校教育課 課長)

【内容】

1. 開会

2. 挨拶:遠藤会長

3. 議事

名取市歯と口腔の健康づくり推進プランの取り組み状況について…資料1、資料2、資料3

妊娠期～学齢期 砂金母子保健係長より説明

成人期～高齢期、全てのライフステージ、障がい児・者 佐藤(和)成人保健係長より説明

【質疑応答、ご意見】

○委員

県の委託事業についても積極的に手を上げて頂き、住民の方の反応も好評だということによかった。取り組みについてはなかなか成果で見るのは難しいと感じた。今後も県の事業と重なる部分と一緒に取り組んでいければと思いますので、よろしくお願いします。

○委員

県の特健健診での歯科保健指導を行っている市町村は、県内 35 市町村の中で、名取市と山元町、大崎市、多賀城市の 4 市町村だけですから、そういう意味では良いと思う。

○委員

色々な事業に積極的に取り組んでおられてとても良いと感じた。イオンモール名取での歯と口と健康のひろばでの歯医者さん体験というのは、思い切った体験で良いと思う。特に小さいお子さんは、歯医者さんに対する恐怖心をもっていらっしゃるお子様も多いので、歯科に対する興味をもってもらい、そこから定期的な検診に足を運んでいただければ良いと感じた。

○委員長

歯医者さん体験というのは、同じようなイベントを今年は亘理町でもやっており、やはり行列がで

きていた。

○委員

歯と口と健康のひろばは大変盛況であった。若い方からお年寄りの方まで、皆さん関心のあるところを中心に見ていかれた。食育コーナーもあり、そこで関心を持ちながら、寄ってくれた方もいた。歯医者さん体験では小さい兄弟が、楽しそうに参加されている微笑ましい情景もあった。オリジナルのスタンプ作りも好評だった。歯科器材にも慣れて頂きながら歯科に対する恐怖心を払拭しながら、健康について学ぶいい機会になったと思う。来年度以降も、引き続き取り組んでいきたい。

○委員

資料2の歯周病検診の検診受診率が下がっているということだが、40歳、60歳を見ると、上がっているの、令和6年度は、20代、30代を入れたので、下がったというに認識してよろしいのかどうか。もし、そうなのであれば、最初のたたき台は9.5%ではなく、7.9%から上がっていくのかということを目標(基準値)にしたほうがいいかと思う。

資料1の乳幼児期に口腔機能を高める、乳幼児期からの習慣が大切だという意識付けを行うということはとても大切なことだと考える。できれば離乳食のときにスプーンを使って、上口唇をうまく使って、口唇を閉じて、離乳食を食べるということを習慣づけて頂くと、口唇閉鎖不全や色々なトラブルを回避する手段になりますので、ぜひこちらのほうは力を入れてやって頂きたい。

○事務局

令和6年度の集計を見ると、やはり20歳、30歳が6.5%、6.3%で40歳、50歳が同じぐらいの率で受けている。60歳、70歳が10%、11%ということで、やはり20歳、30歳が加わったことで、受診率が下がったのではないかと考える。

○委員

この資料2というのは、基準値というのは、令和5年の値を基準値を指しているのか。

○事務局

その通りです。

○委員

むし歯のない人の割合は改善しているが、平均むし歯数が悪化しているのでむし歯のあるお子さんとないお子さんの差があるのだろうと感じた。フッ化物洗口を公立保育所でも実施しているがそのような取り組みをしていくことで小さいときにむし歯になる可能性を少なくするのは、こども支援課としてできることと感じる。

○委員

3歳児の1人平均むし歯の本数というのは、多い人は10本もある人もいたりが多いのだと思う。成人はないが、幼児は以前から、この傾向があると思う。

○委員

私共は高齢者の方々の、健康を守り、いつまでも元気で長生きしていただきたいというところを目指して事業を取り組んでおり、保健センターと、それから保険年金課と共同で、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業を取り組んでおります。保健センターが独自でも各地区の公民館の高齢者学級等で御指導いただいているということもあり、その成果もあって、高齢者の方々については、改善が見られるということで大変ありがたく感じている。

高齢者の方々に指導していただくことで高齢者の方々の反応とかリアクションとか、何かありましたら教えてください。

○事務局

通いの場では歯科衛生士と一緒にオーラルフレイルについてのチェック項目を確認している。口の衰えなどのチェック項目をつけて、4 点以上の場合には注意しましょうという内容。意外と気づかないところで、衰えてむせこんだりしている方もいらっしゃるだったので、普段気付かないでいる衰えを客観的にチェックすることで、自覚できるというところがあると感じた。日頃の習慣も大事だが、定期的に歯医者さんで歯石をとってクリーニングをするということも大事であるというところも伝えおり、関心持って来ていただけたので、継続して多くの方に聞いて頂ければと思う。

○委員

高齢者に対するフレイル、オーラルフレイルの講演というのは、名取市では実施していないが、岩沼市と亶理町で開催している。両方とも非常に好評であった。もしご興味があれば名取市も導入していただければと思う。

○委員

オーラルフレイルについては、やはり高齢者の方に気付かせるっていうところがまず 1 番大切なことだと思う。地域でのポピュレーションアプローチを増やして、高齢者の方に、オーラルフレイルになっているというチェック項目をいろいろ教えていただいて、なるべく自分で自覚できるような機会が多くできればいいと思います。

○委員

昨年度から推進プランの協議会に参加し、皆さんの話を聞きながら、目の前にしている乳幼児、子供たちにはどんなことをしていけるのかなというところを考えながら、お話を聞かせて頂いた。昨年から乳幼児期からの、食への習慣が大切だということをお聞きしていたため、保育所の栄養士と確認し、カルシウムを増量したり、カミカミ献立というのを意識して取り入れている。保護者にも噛むことの大切さを伝えていきたい。今日はスプーンを使ってしっかり口を閉じて食べるところのお話をいただいたので、0 歳児 1 歳児、みんなにこの辺を確認して、食事の指導や、サポートしていけるようにしたいと思う。

○委員

特に乳幼児期・学齢期に関しては、フッ素洗口というのがやっぱり有効だと思う。新潟県の弥彦村で追跡調査をしていたところ、小学低学年でフッ素洗口を行っていた子供たちは今 50 歳になってもむし歯、歯周病が少ないという結果が出ている。フッ素洗口したときだけでなく、それ以降も効果があるので取り入れていただければと思う。

○委員

学齢期の歯磨き指導についての質問。令和 6 年度から始まり、市内には増田、増田西、下増田、愛島という 600 人を超える大規模校があるが、今の 5 年生・6 年生が回らない心配もあるが、今後 1 年間に 400 人強ぐらいの予定で進めていくのか。

○事務局

学齢期の歯磨き指導は、現状としては、小学校から依頼があったところに行かせていただいている状況。

○委員

障がい児・者のことについては、歯科医師会のほうで、障がい児・者の受入れの状況に関して調べていたが、実際ホームページで受入れとしている医院が、名取市の中では 30 件あるうちで 5 件か 6 件だった。ただ、そういったものには出なくても、実際受け入れるところがあると思う。ぜひそのアンケート結果で、調べていただけたら思う。

障がい児・者は鎮静をかけたり、抑制帯を使ったりなど高度な医療になると、やはり大学病院や障害者センターなど仙台の高次の病院を御紹介するような形になると思うが、そういったと

ころの連携も歯科医師会の方ではとれるように整備をしてまいりたいと思う。

先ほど会長のほうからも、フッ素の効果が上がっていたが、保育所でのフッ素洗口を開始し6年ぐらいは経ってきていると思う。条例が設置されて、今は、公立の保育所3か所だけで、恐らく年長さんの学年だけで実施していると思っているが、実施する学年の拡大や、私立のところまで拡大していくとか、そういったところの計画をもっと広げていけたらと思う。

○委員

この資料2を見ると、おおむね乳幼児期と高齢者に関しては、まあまあかなと思う。障がい児・者はまだ統計が出ていませんので。見劣りするのが、妊娠期、学齢期、成人期だと思う。その辺の改善を行政の皆さんにはお願いしたい。例えば、妊婦歯科健診などは、県内35市町村の中で、28市町村が導入して7市町村だけ導入していない。一方歯周病検診は35市町村のうち35市町村全部など、導入している。条例を制定したということであれば、それに加えて何かプラスアルファを入れていかないと駄目だと思う。

○事務局

やはり、妊娠期、学童期、成人期というところでなかなか保健センターとして、関わりにくい年齢層にはなっておりますが、おっしゃるとおり、条例を制定しておりますので、今後、手法について、内部で検討して対応していきたいと思う。

○委員

特にこれ(資料2)を見ると40歳の歯周病の有病率が非常に高いため、その辺からかなと思う。委員の皆様からいただいた意見を参考にして、今後の事業に取り組んでいただきたいと思う。

4. その他

・塩釜保健所より、みやぎベジプラスメニューの資料を配布。

5. 閉会